

# ふたばね



タイワンクワガタコガネの大臑の変異

No. 9

1983年11月

日本鞘翅目学会

酒井 貢：ハムシ科における成虫の大臍形態について……………	1
日本鞘翅目学会第7回総会・甲虫談話会11月例会合同例会記……………	20
第7回・名古屋支部例会記……………	22
会 員 動 静……………	23
会からのお知らせ・ご案内……………	25
1982年度会計報告……………	26
編 集 後 記……………	26

表紙題字：畑山千枝

表紙写真：斉藤明子採集、猪又敏男撮影、小林裕和協力、斉藤秀生構成

# ハムシ科における成虫の大腮形態について

酒井 貢

ハムシ科 Chrysomelidae は鞘翅目の中でも比較的大きなグループであり、日本から 562 種が知られている(大野, 1971)。カミキリムシ科 Cerambycidae およびマメゾウムシ科 Bruchidae とともに植食性を示しハムシ上科 Chrysomeloidea に含まれる。

成虫は主として葉を食すが、幼虫には地中で根を食すもの、茎に入るもの、葉肉に潜入するものなど、より多様な食害形式があることが知られている(滝沢, 1981)。ハムシ科甲虫の host となる植物は種によってその嗜好性が異なっており、特定の植物のみを食すものから多数の科にわたった植物を食すものまでいろいろな選択性がある(大野, 1970)。

筆者は、このような食性を持つハムシ科甲虫の口器の形態を比較検討するという研究は、ハムシ科が食性を変化させてきた道すじをたどる上でも非常に重要であると考えた。今回は、食性と密接な関係を持つ大腮 mandible の形態について比較検討を試みたのでここに報告する。

なおハムシ科甲虫の大腮の形態については Chûjô (1951-62) の、近縁のカミキリムシ科においては下村(1975)の研究がある。

## 比較検討に用いた材料

今回用いた材料は日本産ハムシ科の中から、各亜科の種数および多様性を考慮したうえで 92 種を選択し用いた。なお材料はすべて雄とした。

また使用した標本の種名およびその採集データは、表 2 に示した。

## 方法

材料にはすべて乾燥標本を用い、5% NaOH 水溶液中で約 5 分間煮沸湯煎した後、ガラス皿上において 70% アルコールに沈めピンセットで口器を分解した。一連の口器から大腮を取りはずした後に、ホルスライドガラス上でグリセリン中に沈め、双眼実体顕微鏡下で観察を行った。

## 各亜科の概要

観察結果を記述する前に、ここでハムシ科の概略を把握するために各亜科の簡単な解説を述べることにする。現在ハムシ科は 17 亜科に分類されており、このうち日本には 16 亜科が分布している。

ハムシ科における higher-taxa の分類に関しては近年になって Chen (1973), Crowson (1981) 等が新しい意見を提出しているが、ここでは Kimoto (1964-66) の取り扱いに従った。

### 1. ナガハムシ亜科 Orsodacninae

日本からはクロナガハムシ *Orsodacne arakii* Chûjô のみが記録されている。非常に小さな亜科で、

生活史、host 等は不明である。成虫は山地の花より得られる。

2. モモプトハムシ亜科 *Zeugophorinae*

日本からは1属10種が記録されている。比較的稀な種が多く、生活史に関する報告は少ない。ワモンモモプトハムシ *Zeugophora annulata* (Baly) については、マユミの葉に潜入した幼虫が林(1962)によって報告されている。

3. カタビロハムシ亜科 *Megalopodinae*

小さな亜科で、日本からはカタビロハムシ *Temnaspis japonicus* Baly のみが記録されている。成虫はネズモチ・コバノトネリコ・イボタノキの若枝をかじることが知られている。

4. ネクイハムシ亜科 *Donaciinae*

日本からは3属17種が記録されている。この亜科は水辺の草本を host としており、半水棲の特異な生活をするのが知られている。特に稲の害虫として有名なイネネクイハムシ *Donacia provosti* Fairmaire については、高橋(1954)の詳細な研究がある。

5. クビナガハムシ亜科 *Criocerinae*

日本からは4属30種が記録されている。イネ・ツユクサ・ユリ等の単子葉植物を host とするものが多い。この亜科の幼虫は糞を背にのせる習性がある。稲の害虫として有名なイネドロオイムシはイネクビボソハムシ *Oulema oryzae* (Kuwayama) の幼虫である。

6. ナガツツハムシ亜科 *Clytrinae*

日本からは3属10種が知られている。オオナガツツハムシ属 *Clyta* では、アリの巣で生活するものが知られているが、日本におけるこのような報告はない。

7. ツツハムシ亜科 *Cryptocephalinae*

日本からは4属41種が記録されている。体形が円筒形であることからこの名がある。幼虫は糞で殻を作り、その中に潜んで落葉を食することが知られている。

8. ツヤハムシ亜科 *Lamprosomatinae*

日本からは2属7種が記録されている。いずれも3mm前後の小型種で、体表が平滑でつやがある。

9. コブハムシ亜科 *Chlamisinae*

ツヤハムシ亜科と同様にいずれも3~4mmの小型種で、日本からは1属10種が記録されている。体表にコブ状の隆起を備え、一見鱗翅目幼虫の糞を思わせることから、ムシクソハムシの異名がある。

10. サルハムシ亜科 *Eumolpinae*

日本からは20属51種が記録されている。この亜科は南方に種類数が多いことが Kimoto (1966) によって報告されている。幼虫は土中で植物体の根を食する。

11. ホソハムシ亜科 *Synetinae*

日本からはカバノキハムシ *Syneta adamsi* Baly およびオオカバノキハムシ *S. major* Nakane の2種が記録されている。生活史については不明である。成虫は山地で発見される。

12. ハムシ亜科 *Chrysomelinae*

サルハムシ亜科とは逆に、この亜科は北方に種類数が多いことが Kimoto (1966) によって報告されている。日本からは16属49種が記録されている。体長10mm前後の大型種が多く、幼・成虫ともに葉上で葉を食する。

13. ヒゲナガハムシ亜科 *Galerucinae*



日本からは 37 属 98 種が記録されている。ハムシ科各亜科の中でも大きなグループで、一般に鞘翅が柔かく、触角が長いのが特徴である。ウリ類の害虫で有名な、ウリハムシ *Aulacophora femoralis* (Motschulsky) はこの亜科に含まれる。

14. トビハムシ亜科 **Alticinae**

日本からは 50 属 193 種が記録されており、ハムシ科の中で最大の亜科である。発達した後腿節により跳ねることから、ノミハムシとも呼ばれる。体長 2mm 以下の小型種から 7mm にもおよぶ大型種まで変化に富んでいるが、一般には小型種が多い。

15. トゲハムシ亜科 **Hispinae**

日本からは 6 属 13 種が記録されている。この亜科は前胸背および鞘翅にとげを備えた特異な形態を持ち、単子葉類を host とする種が多い。

16. カメノコハムシ亜科 **Cassidinae**

日本からは 7 属 30 種が記録されている。この亜科は体形がカメの甲羅のような特異な形態を持ったグループのためこの名がある。幼虫は脱皮殻を背面に乗せたまま生活する。

観察結果

1. 口器の一般形態

次にハムシ科成虫に関して口器 mouth-parts の一般的な形態を述べる。ハムシ科成虫の口器はその食性に適した咀嚼式 <sup>そしやくしき</sup> Chewing-type の口器であり、上唇 labrum、下唇 labium およびそれぞれ一対の大腮 mandibles、小腮 maxillae の 4 つの器官より成っている (図 1 参照)。

上唇 Labrum: 頭部の前方に位置し、大腮の基部を覆って口腔 mouth cavity の屋根となっている。

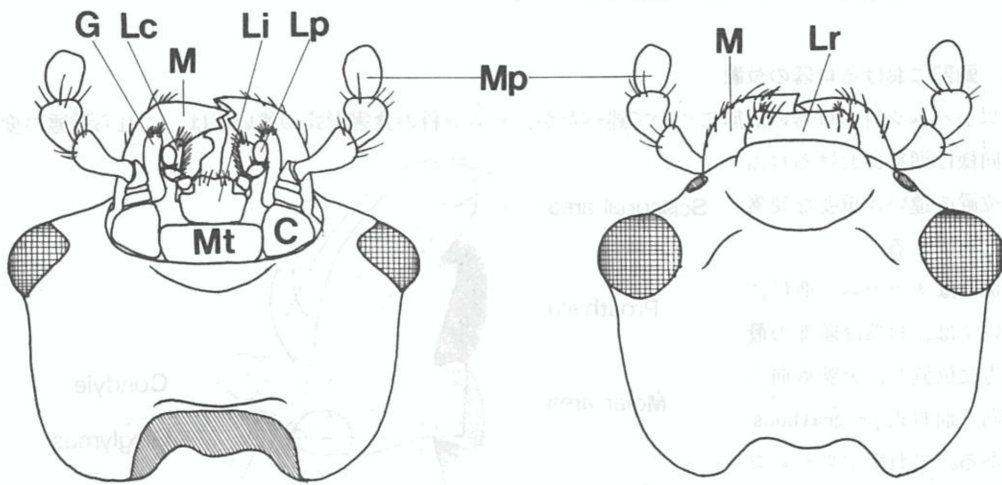


図 1. ヨモギハムシ *Chrysolina aurichalcea* (Mannerheim) の頭部

左: 腹面図, 右: 背面図, ; M: Mandible 大腮, Li: Labium 下唇, Lr: Labrum 上唇, C: Cardo 軸節, G: Galea 外弁, Lc: Lacinia 葉節, Lp: Labial palpus 下唇鬚, Mp: Maxillary palpus 小腮鬚, Mt: Mentum 下唇基節

**大腮 Mandibles** : 頭部における一対の付属肢 appendage であり、葉を切断あるいは砕く働きがある。ハムシ科のような植食性昆虫においては、歯が鈍くなる。

**小腮 Maxillae** : 大腮と同様に一対の付属肢が変化したもので、基部から軸節 cardo・蝶鉸節 stipes と続き、蝶鉸節には葉節 lacinia・外弁 galea の2葉片が備わる。また小腮には感覚を司る小腮鬚 maxillary palpus が存在する。小腮の機能は補助的なもので、咀嚼を助けたり大腮で切断する際の葉の固定などの働きがある。

**下唇 Labium** : 下唇もまた一対の付属肢が変化したものであるが、完全に融合している。

以上ハムシ科成虫の口器の概略を述べたが、ここで大腮の形態をさらに詳しく見ることにする。

## 2. 大腮の一般形態

大腮は一対の付属肢であり、一般に左右の大腮は不对称である。これは大腮をかみ合わせる際に上下に重なるためである。

各大腮の基本構造は三角錐になっており、三つの側面がそれぞれ体に対して背面、側面、および腹面となり、底の部分が頭蓋 head capsule と節間膜でつながっている(図2参照)。

背面と腹面の接線は先端部で刃 edge を形成しいくつかの歯 teeth を備える切歯部 scissorial area となる。この切歯部より基部には臼歯部 molar area が存在する。切歯部と臼歯部間の腹面内縁には膜状構造物である大腮鞘 prosthaca が認められる。これらの構造物の機能は、それぞれ切歯部で葉を切断し、臼歯部でそれをすり潰し、大腮鞘は細くなった食物を口腔へ運び込む働きをする。

背面と側面の接線の基部および腹面と側面の接線の基部には、それぞれ頭蓋と関節し、前者を蝶番 ginglymus 後者を顆状突起 condyle という。

また内縁基部と外縁基部には大腮の開閉に用いられる二つの筋肉、大腮内転筋 abductor muscle、大腮外転筋 abductor muscle の付着点がある。

これらの形態については沢田(1967)に従った。

## 3. 頭部における口器の位置

以上ハムシ科の口器の形態について述べたが、ハムシ科の食害形式の違いには、これら形態の変化と同様に頭部における口器の位置の違いが重要な要素となってくる。

例えばナガハムシ亜科においては、口器は頭部の最前方に位置し、大腮も前方を向く前口式 prognathous である。これがツツハムシ亜科の口器では頭部の下方に位置し、大腮も下方を向く下口式 hypognathous となる。さらにカメノコハム

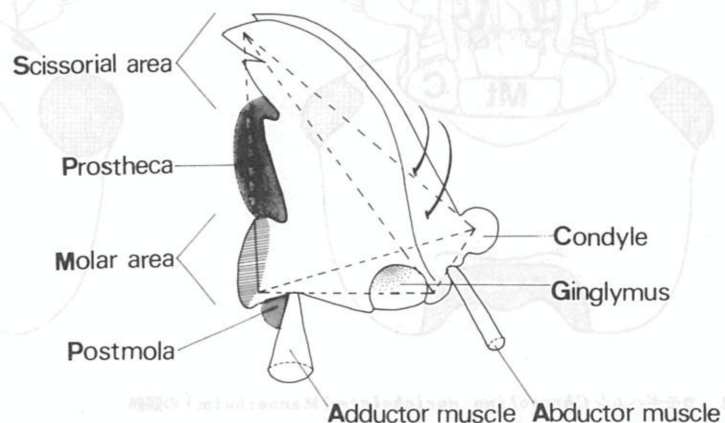


図2. ハムシ科成虫大腮の一般形態

破線は大腮の基本構造の三角錐を示す。

シ亜科においては口器は頭部の下方後方に位置する後口式 opisthognathous となる。口器の位置を各亜科ごとに調べたのが表 1 である。

これらの口器の位置を考慮した上で、ハムシ科の大腮の形態を比較してみる。

### 比較検討の結果

観察した大腮のうち右大腮の背面図および腹面図を図 3-1~92 に示す。

#### 1. 大腮における各部分の特徴

**切歯部 Scissorial area** : 切歯部は前方にまっすぐ伸長するグループと下方に屈曲するグループに分けられる。伸長するグループには、ナガハムシ亜科・モモトハムシ亜科およびカタビロハムシ亜科が含まれ、その他の各亜科は屈曲するグループである。屈曲するグループにおいては、腹面の内側の一部が凹んで内面を形成し、この内面と腹面の接線が刃を形成し歯を備える。カメノコハムシ亜科では特に内面が発達し、さじ状の特異な形態である。

歯数については変化が多く、亜科ごとにまとまりにくい。ナガツツハムシ亜科・ツツハムシ亜科・ツヤハムシ亜科・コブハムシ亜科・ホソハムシ亜科およびサルハムシ亜科についてはすべて 2 歯である。

**臼歯部 Molar area** : 臼歯部が認められるのは、ナガハムシ亜科・モモトハムシ亜科・ネクイハムシ亜科およびクビナガハムシ亜科のみである。このうちナガハムシ亜科・ネクイハムシ亜科およびクビナガハムシ亜科に含まれる種はよく発達し明瞭な臼状構造を有するが、モモトハムシ亜科の

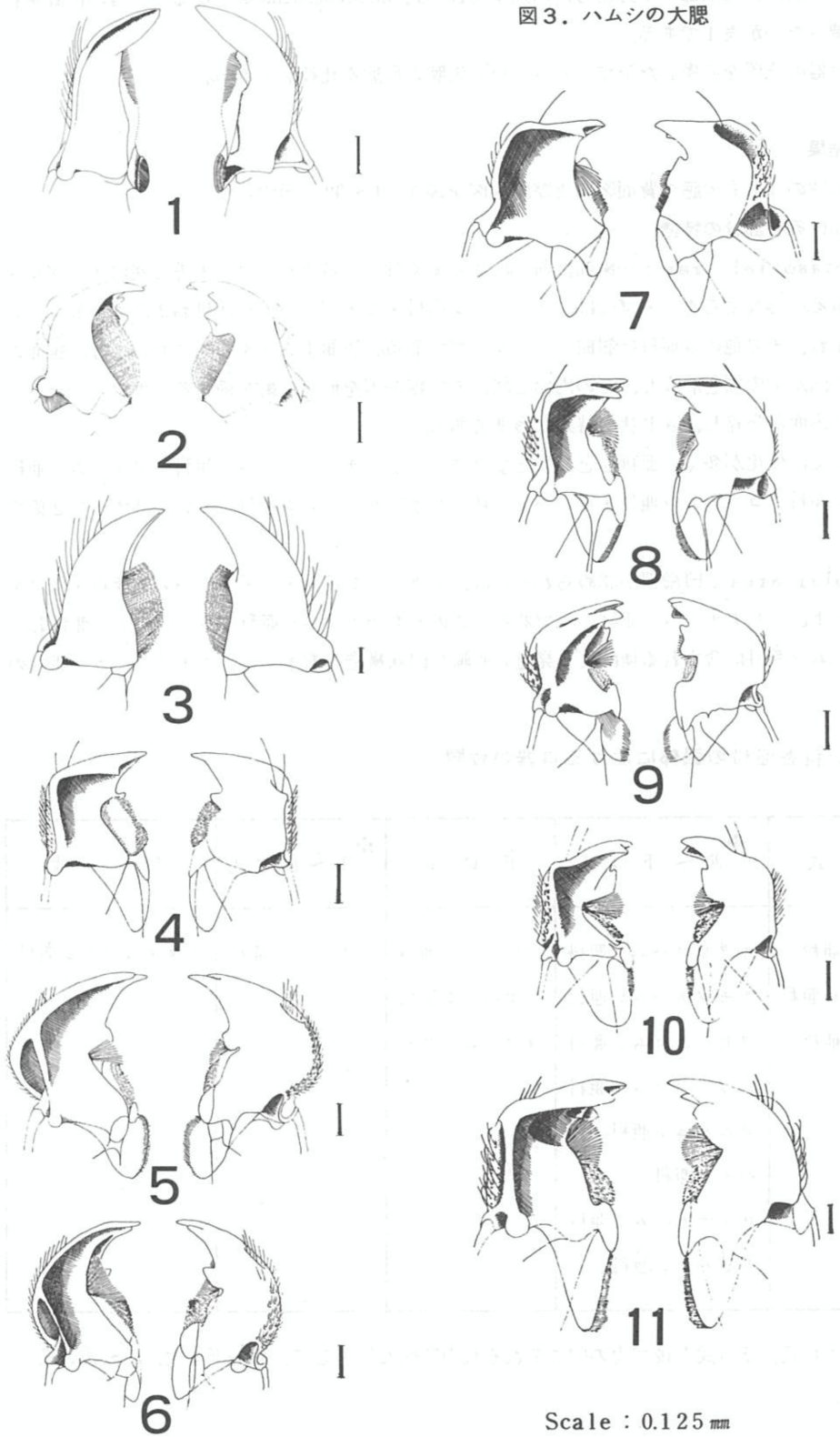
表 1. ハムシ科各亜科の頭部における口器の位置

前 口 式	※前～下口式	下 口 式	※下～後口式	後 口 式
ナガハムシ亜科	カタビロハムシ亜科	ツツハムシ亜科	トゲハムシ亜科	カメノコハムシ亜科
ネクイハムシ亜科	モモトハムシ亜科	ツヤハムシ亜科		
ホソハムシ亜科	クビナガハムシ亜科	コブハムシ亜科		
	ナガツツハムシ亜科			
	サルハムシ亜科			
	ハムシ亜科			
	ヒゲナガハムシ亜科			
	トビハムシ亜科			

※前口式と下口式、下口式と後口式の間それぞれ中間的な型として、前～下口式、下～後口式を用いた。



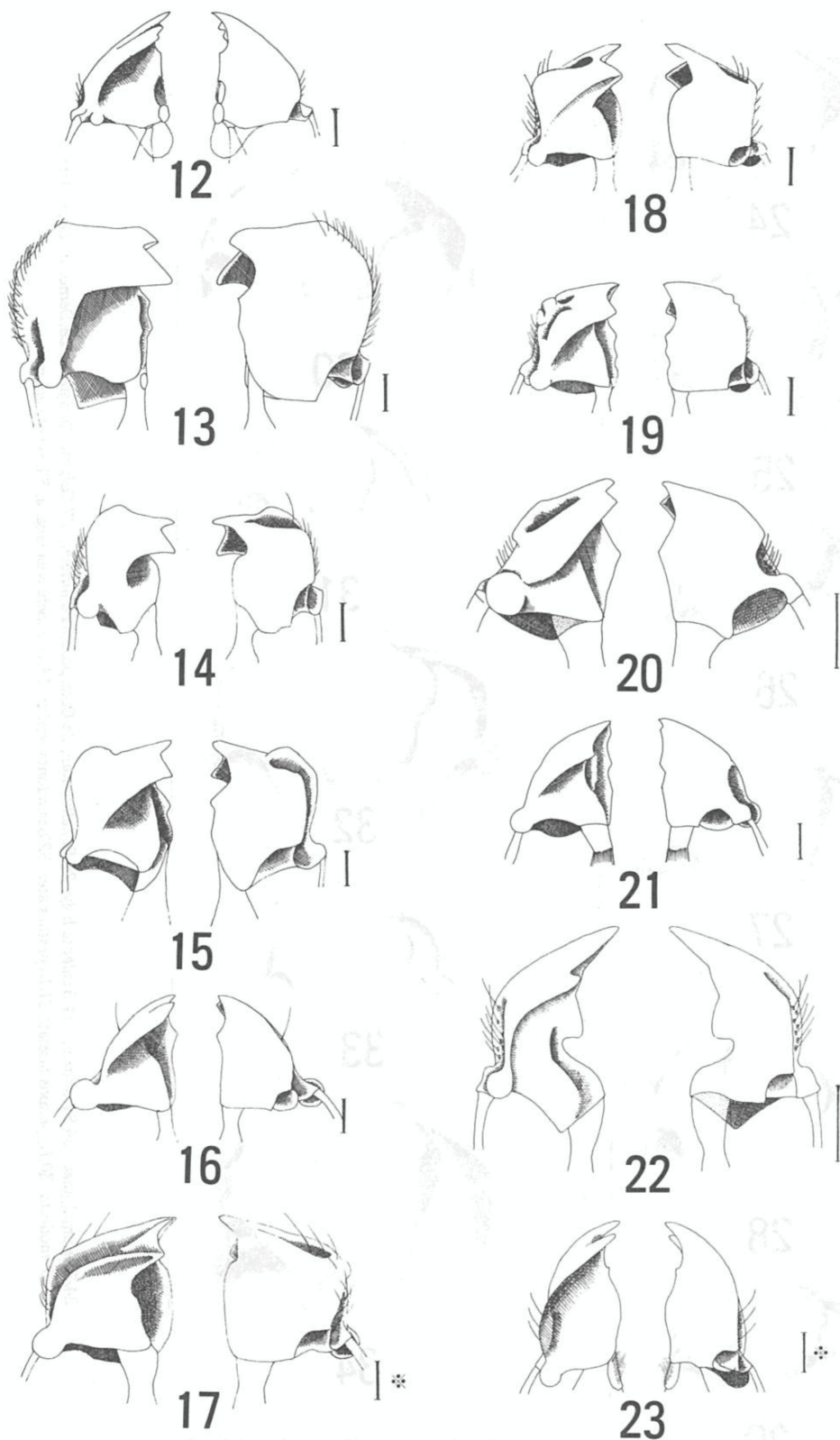
図3. ハムシの大腭



1. *Orsodacninae*, 2. *Zeugophorinae*, 3. *Megalopodinae*, 4. *Donaciinae*, 7-11. *Criocerinae*: 1. *Orsodacne arakii*, 2. *Zeugophora annulata*, 3. *Tennaspis japonicus*, 4. *Donacia provosti*, 5. *Plateumaris constricticollis*, 6. *P. nipponensis*, 7. *Crioceris quatuordecimpunctata*, 8. *Lema circicola*, 9. *L. diversa*, 10. *Lilloceris lewisi*, 11. *L. subpolita*

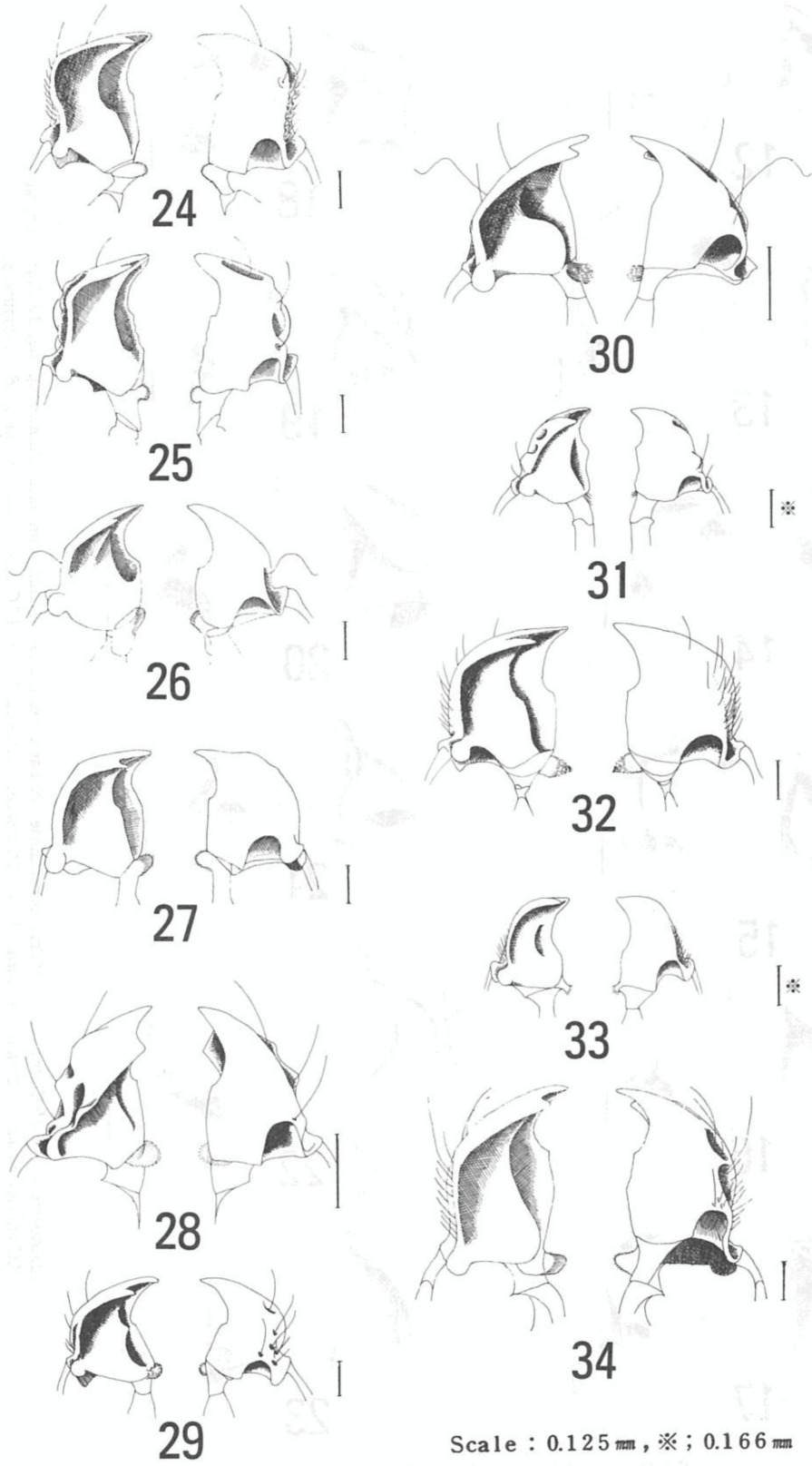
Scale : 0.125 mm





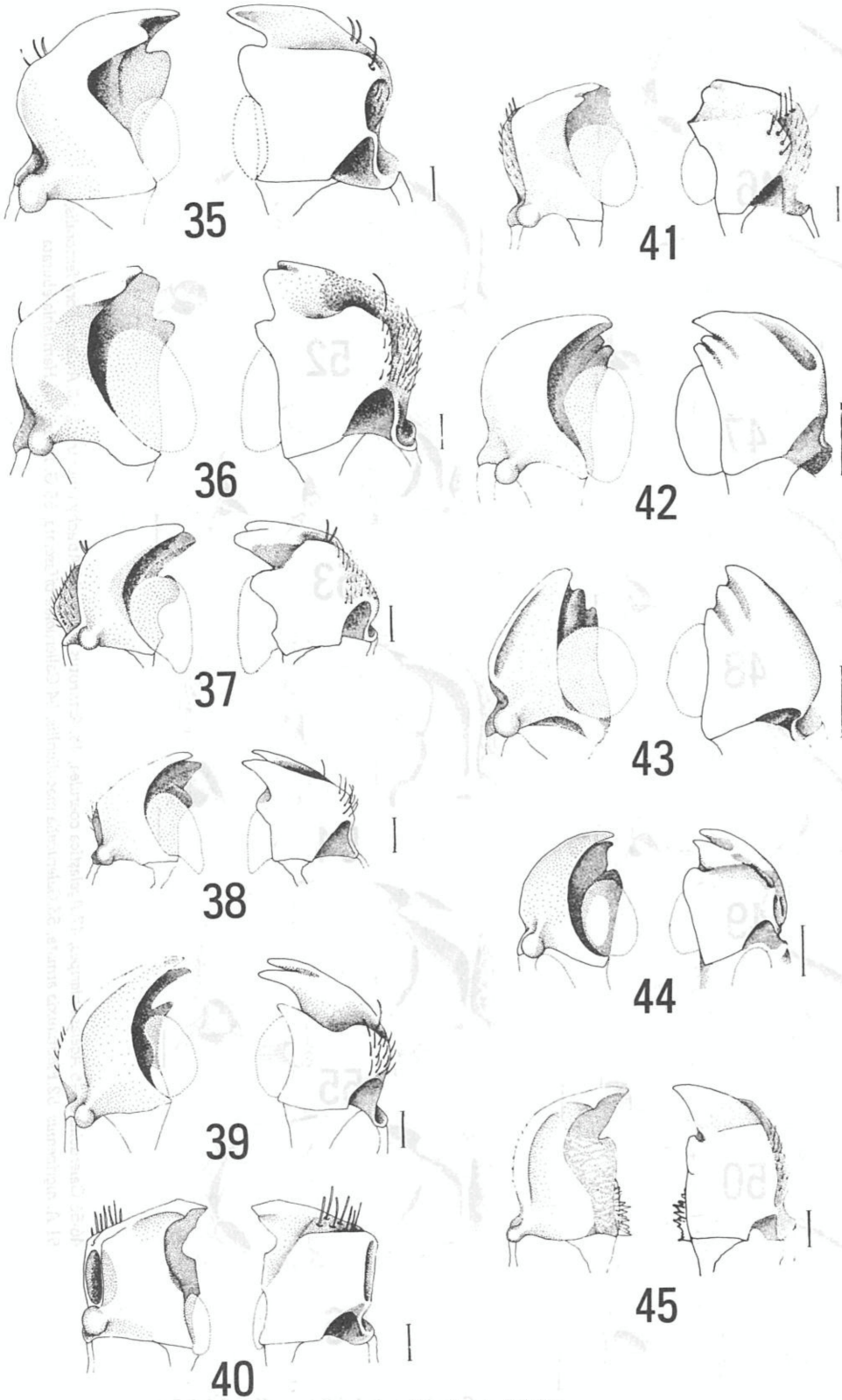
12. *Criocerinae*, 13-15. *Clytrinae*, 16-19. *Cryptocephalinae*, 20. *Lamprosomatinae*, 21-22. *Chlamisinae*, 23. *Eumolpinae*, 12. *Oulema oryzae*,  
 13. *Clyta laeviuscula*, 14. *Smaragdina aurita*, 15. *S. nipponensis*, 16. *Adiscus lewisii*, 17. *Cryptocephalus japonus*, 18. *C. signaticeps*,  
 19. *Pachybrachys eruditus*, 20. *Oomorphoides cupreatus*, 21. *Chlamisus laticollis*, 22. *C. spilotus*, 23. *Acrothinium gaschkewitschii*

Scale : 0.125 mm , ※ ; 0.166 mm



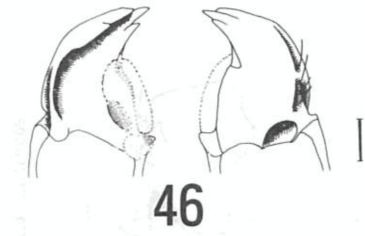
24-35. Eumolpinae, 34. Synetinae; 24. *Basilepta baly*, 25. *B. pallidulum*, 26. *Colasposoma dauricum*, 27. *Colposcelis signata*, 28. *Demotina fasciculata*, 29. *D. modesta*, 30. *Hyperaxis fasciata*, 31. *Lypesthes ater*, 32. *Scelodonta lewisii*, 33. *Trichochrysea japana*, 34. *Syneta adamsi*

Scale : 0.125 mm, ※ ; 0.166 mm

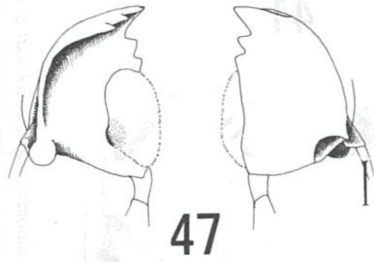


35-45. Chrysomelinae; 35. *Chrysolina aurichalcea*, 36. *Chrysomela populi*, 37. *Gastrolina depressa*, 38. *Gastrolina japonica*, 39. *Gastrophysa atrocyanea*,  
40. *Gonioctena japonica*, 41. *Lineaidea aenea*, 42. *Phaedon brassicae*, 43. *Phratora grandis*, 44. *Plagioderma versicolora*, 45. *Potania cyrtoneoides*

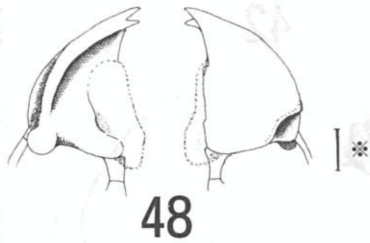
Scale : 0.125 mm



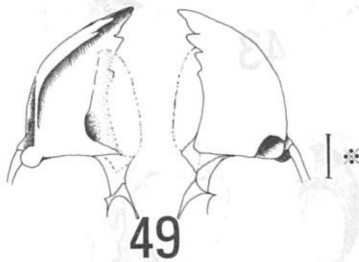
46



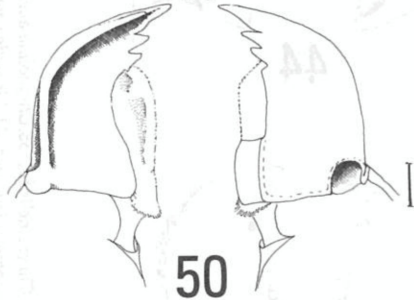
47



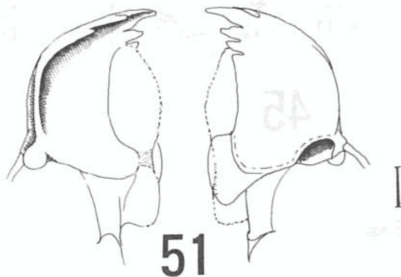
48



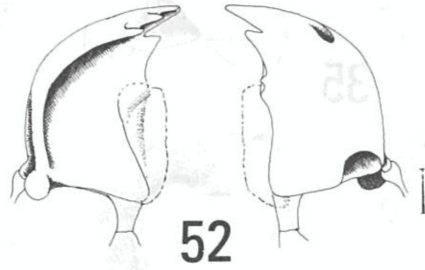
49



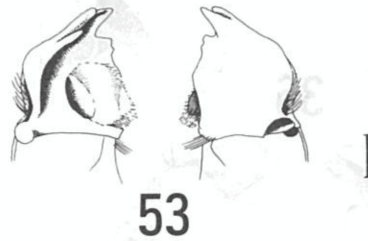
50



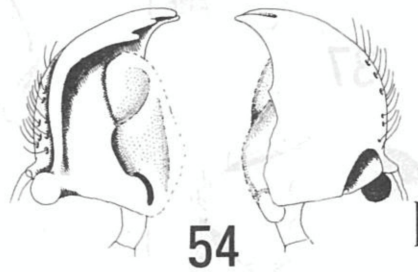
51



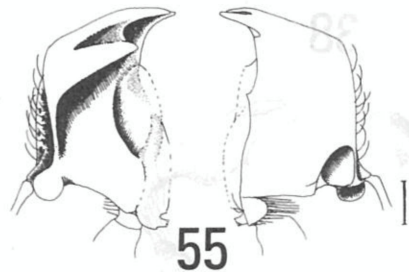
52



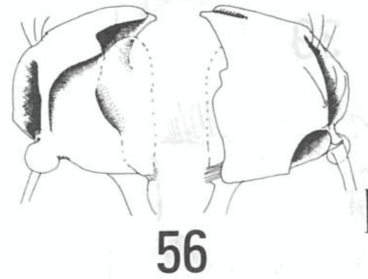
53



54



55

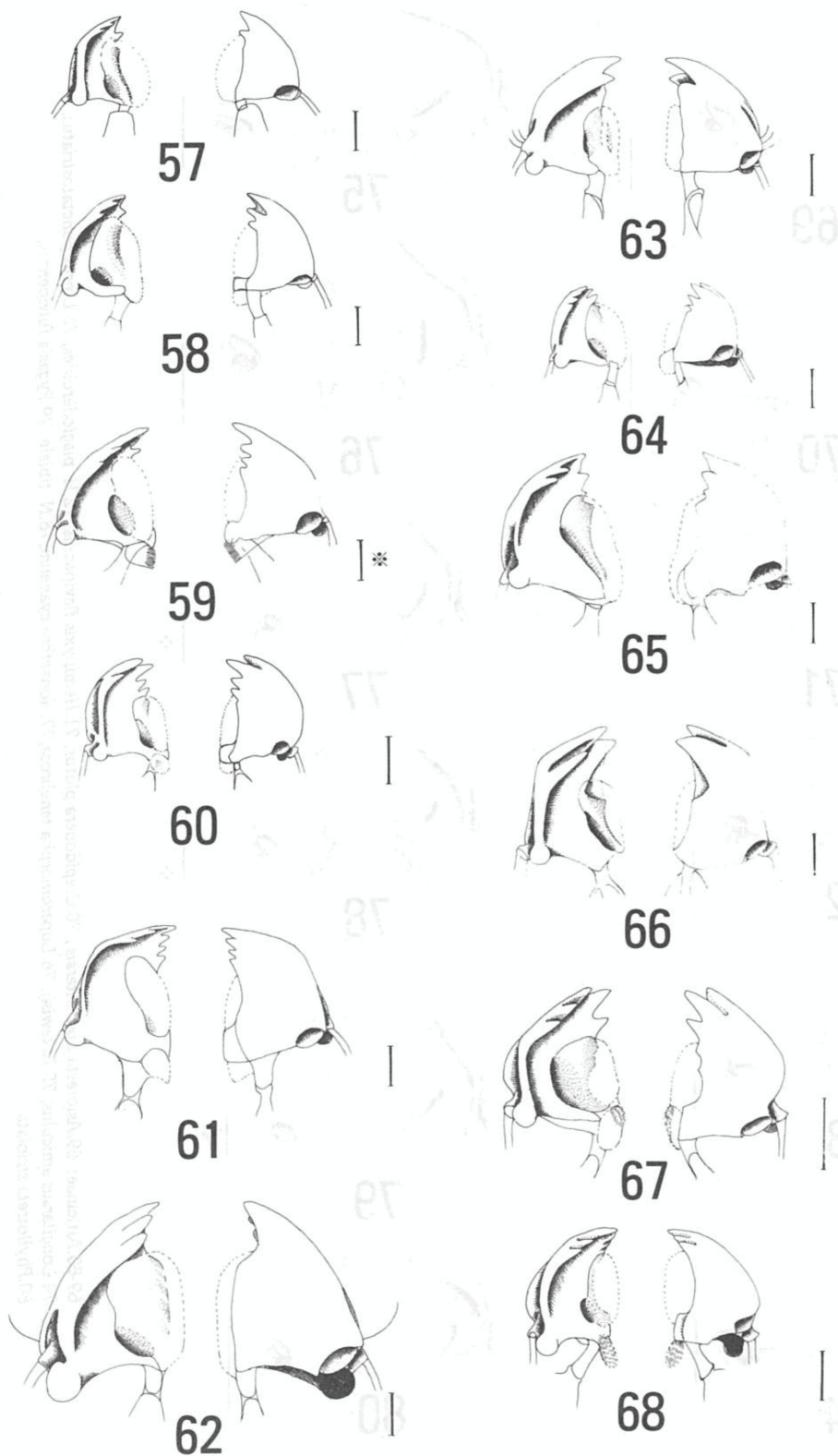


56

46-56. *Galerucinae*; 46. *Agelasa nigripes*, 47. *Agelastica coerulea*, 48. *Arthrotus niger*, 49. *Atrachya mentriési*, 50. *Aulacophora femoralis*, 51. *A. nigripennis*, 52. *Fleutiauxia armata*, 53. *Galerucella maculicollis*, 54. *Gallerucida bifasciata*, 55. *G. lewisi*, 56. *Hamushia eburata*

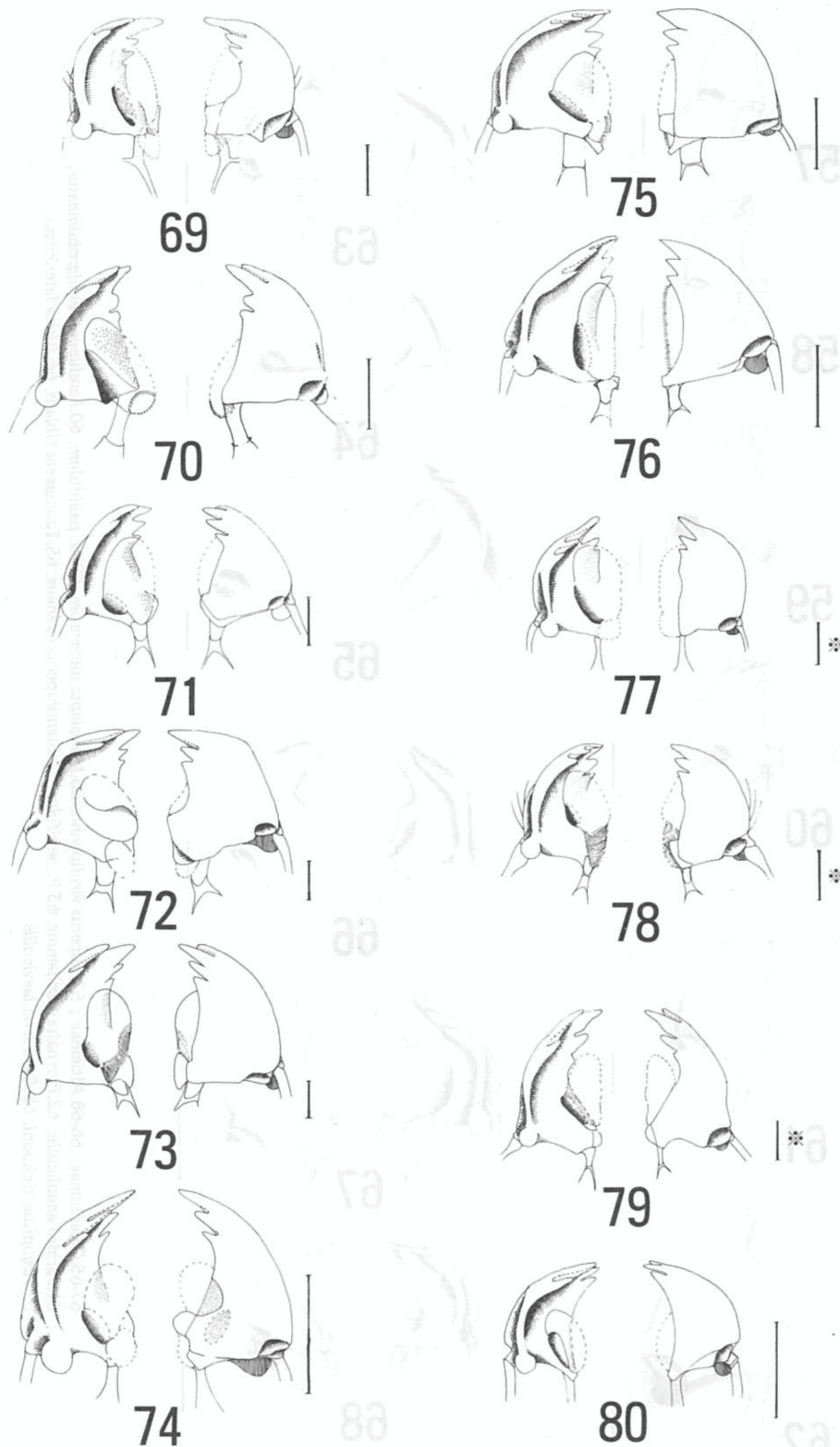
Scale : 0.166 mm , \* ; 0.125 mm





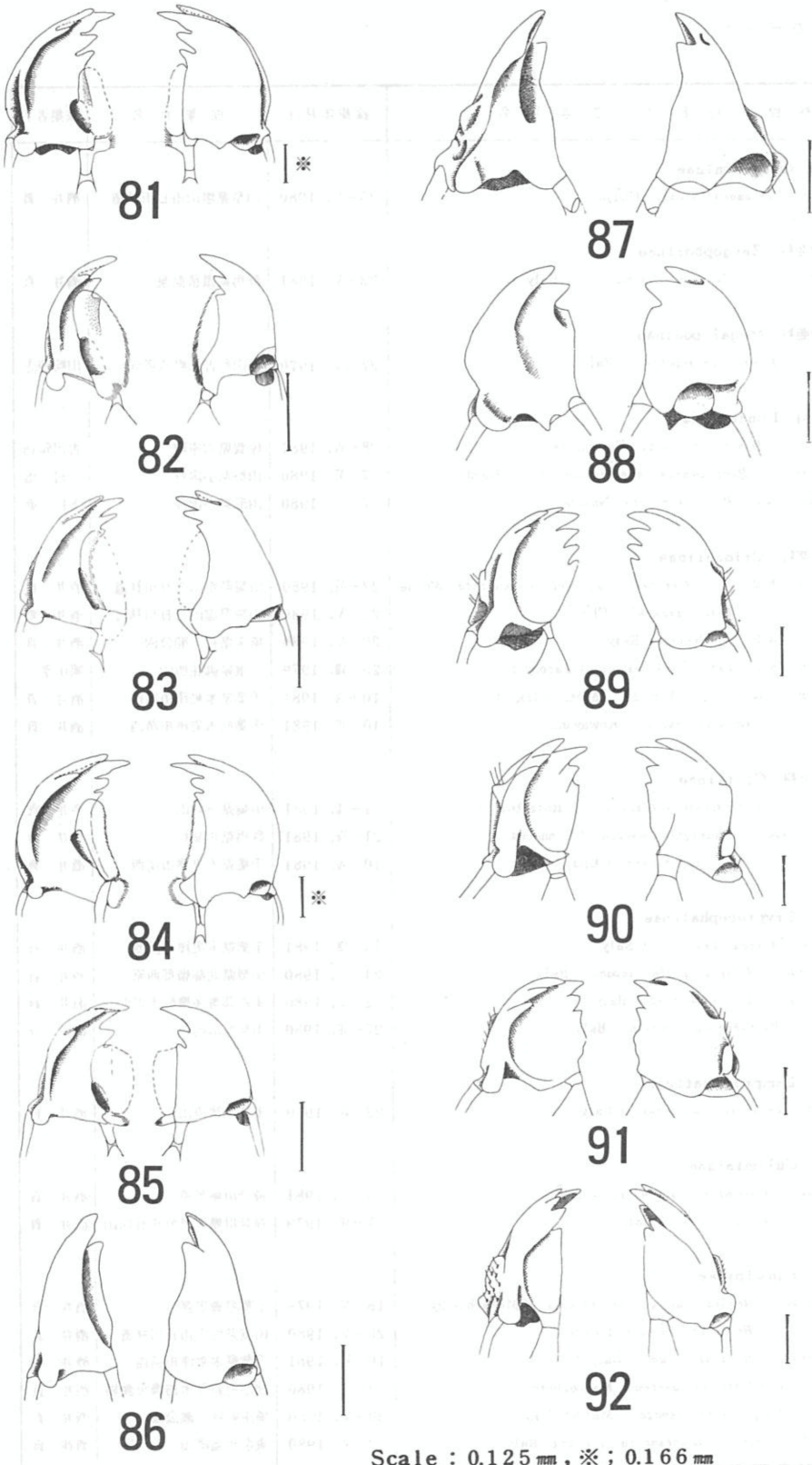
57-65. Galerucinae, 66-68. Alticinae ; 57. *Luperus viridipennis*, 58. *Monolepta dichrorum*, 59. *M. pallidulum*, 60. *Paraluperodes nigrobilineatus*, 61. *Paridea angulicollis*, 62. *Pyrrhalta fascipennis*, 63. *P. semifulva*, 64. *Stenoluperus cyaneus*, 65. *Taumacera tibialis*, 66. *Altica latericosta*, 67. *Argopistes tsekooni*, 68. *Asiorestia laevicollis*

Scale : 0.125 mm, \* ; 0.166 mm



69-80. Alticinae; 69. *Asioresta obscuritarsis*, 70. *Crepidodera plutus*, 71. *Hemipyxis flavipennis*, 72. *H. plagioderoideis*, 73. *Liprus punctatostratus*,  
 74. *Longitarsus amicus*, 75. *L. Lewisii*, 76. *Luperomorpha tenebrosa*, 77. *Nonarthra cyaneum*, 78. *N. tibiale*, 79. *Pygasia fulvipennis*,  
 80. *Phyllotreta striolata*

Scale : 0.125 mm , \* ; 0.166 mm



Scale : 0.125 mm, ※ ; 0.166 mm

81-85. Alticinae, 86-88. Hispinae, 89-92. Cassidinae; 81. *Pseudodera xanthospila*, 82. *Psylliodes attenuata*, 83. *P. punctifrons*, 84. *Sangariola punctatostrata*, 85. *Trachyaphthona obscura*, 86. *Dactylispa masonii*, 87. *D. subquadrata*, 88. *Rhadinosa nigrocyanea*, 89. *Aspidomorpha difformis*, 90. *Cassida nebulosa*, 91. *C. vespertina*, 92. *Thalaspida biramosa*

表 2. 観察標本のデータ

観察標本種名および亜科名	採集年月日	採集地名	採集者名
<b>I. ナガハムシ亜科 Orsodacninae</b>			
1. クロナガハムシ <i>Orsodacne arakii</i> Chûjô	25-V, 1980	山梨県塩山市日川林道	酒井 貢
<b>II. モモブトハムシ亜科 Zeugophorinae</b>			
2. ワモンモモブトハムシ <i>Zeugophora annulata</i> (Baly)	23-V, 1981	群馬県霜積温泉	酒井 貢
<b>III. カタビロハムシ亜科 Megalopodinae</b>			
3. カタビロハムシ <i>Temnaspis japonicus</i> Baly	27-V, 1979	岡山県吉永町八塔寺	山崎裕志
<b>IV. ネクイハムシ亜科 Donaciinae</b>			
4. イネネクイハムシ <i>Donacia provosti</i> Fairmaire	28-VII, 1981	佐賀県六座町	古川雅通
5. オオミズダサハムシ <i>Plateumaris constricticollis</i> (Jacoby)	7-VI, 1980	山形県小国峠	下村 徹
6. キヌゲミズダサハムシ <i>P. nipponensis</i> Nakane	7-VI, 1980	山形県小国峠	下村 徹
<b>V. クビナガハムシ亜科 Criocerinae</b>			
7. ジュウシホシクビナガハムシ <i>Crioceris quatuordecimpunctata</i> Weise	22-VI, 1980	山梨県塩山市日川林道	酒井 貢
8. アザミクビボソハムシ <i>Lema cirsicola</i> Chûjô	25-V, 1980	山梨県塩山市日川林道	酒井 貢
9. カワリクビボソハムシ <i>L. diversa</i> Baly	30-V, 1980	埼玉県秋ヶ瀬公園	酒井 貢
10. ルイスクビナガハムシ <i>Lilioceris lewisi</i> (Jacoby)	20-VII, 1979	三重県御在所山	岡山泰三
11. アカツヤクビナガハムシ <i>L. subpolita</i> (Motschulsky)	10-VII, 1981	千葉県木更津市請西	酒井 貢
12. イネクビボソハムシ <i>Oulema oryzae</i> (Kuwayama)	10-VII, 1981	千葉県木更津市請西	酒井 貢
<b>VI. ナガツツハムシ亜科 Clytrinae</b>			
13. ヨツボシナガツツハムシ <i>Clyta laeviuscula</i> (Ratzeburg)	1-VII, 1981	山梨県三峠山	酒井 貢
14. キボシナガツツハムシ <i>Smaragdina aurita</i> (Linnaeus)	21-VII, 1981	群馬県片品村	酒井 貢
15. キイロナガツツハムシ <i>S. nipponensis</i> (Chûjô)	10-VII, 1981	千葉県木更津市請西	酒井 貢
<b>VII. ツツハムシ亜科 Cryptocephalinae</b>			
16. タマツツハムシ <i>Adiscus lewisi</i> (Baly)	10-VII, 1981	千葉県木更津市請西	酒井 貢
17. ヤツボシツツハムシ <i>Cryptocephalus japonus</i> Baly	24-V, 1980	山梨県北都留郡西原	酒井 貢
18. クロボシツツハムシ <i>C. signaticeps</i> Baly	2-V, 1980	東京都奥多摩町水根沢	酒井 貢
19. ホソツツハムシ <i>Pachybrachys eruditus</i> Baly	27-VII, 1980	山梨県広河原	酒井 貢
<b>VIII. ツヤハムシ亜科 Lamprosomatinae</b>			
20. ツヤハムシ <i>Oomorhoides cupreatus</i> (Baly)	22-IV, 1980	千葉県清澄山	酒井 貢
<b>IX. コブハムシ亜科 Chlamisinae</b>			
21. ツツジコブハムシ <i>Chlamisus laticollis</i> Chûjô	5-V, 1981	神奈川県半原	酒井 貢
22. クスギコブハムシ <i>C. spilotus</i> (Baly)	7-VII, 1979	神奈川県伊勢原市日向山	酒井 貢
<b>X. サルハムシ亜科 Eumolpinae</b>			
23. アカガネサルハムシ <i>Acrothinium gaschkevitschii</i> (Motschulsky)	18-V, 1979	千葉県養老溪谷	酒井 貢
24. ハンノキサルハムシ <i>Basilepta balyi</i> (Harold)	26-V, 1980	山梨県塩山市日川林道	酒井 貢
25. ウスイロサルハムシ <i>B. pallidulum</i> (Baly)	10-VII, 1981	千葉県木更津市請西	酒井 貢
26. イモサルハムシ <i>Colasposoma dauricum</i> Mannerheim	2-VI, 1980	神奈川県厚木市農大農場	酒井 貢
27. ヒメサルハムシ <i>Colposcelis signata</i> (Motschulsky)	30-V, 1980	埼玉県秋ヶ瀬公園	酒井 貢
28. シロオビアラゲサルハムシ <i>Demotina fasciculata</i> Baly	3-V, 1980	東京都高尾山	酒井 貢



観察標本種名および亜科名	採集年月日	採集地名	採集者名
29. チャイロアラゲサルハムシ <i>D. modesta</i> Baly	10-VI, 1981	千葉県木更津市請西	酒井 貢
30. ウスゲサルハムシ <i>Hyperaxis fasciata</i> (Baly)	3-V, 1980	東京都高尾山	酒井 貢
31. コフキサルハムシ <i>Lypsthes ater</i> (Motschulsky)	6-VI, 1980	埼玉県大滝村川又	酒井 貢
32. ドウガネサルハムシ <i>Scelodonta lewisii</i> Baly	30-V, 1980	埼玉県秋ヶ瀬公園	酒井 貢
33. シロオビムクゲサルハムシ <i>Trichochrysea japana</i> (Motschulsky)	3-V, 1980	東京都高尾山	酒井 貢
<b>X. ホソハムシ亜科 Synetinae</b>			
34. カバノキハムシ <i>Syneta adamsi</i> Baly	23-VI, 1980	山梨県塩山市日川林道	酒井 貢
<b>XI. ハムシ亜科 Chrysomelinae</b>			
35. ヨモギハムシ <i>Chrysolina aurichalcea</i> (Mannerheim)	24-VI, 1980	群馬県片品村	酒井 貢
36. ドロノキハムシ <i>Chrysomela populi</i> Linnaeus	23-VI, 1980	群馬県片品村	酒井 貢
37. ヒラタハムシ <i>Gastrolina depressa</i> Baly	7-VII, 1980	山梨県三峠山	酒井 貢
38. キイロヒラタハムシ <i>Gastrolinoides japonica</i> (Harold)	7-VI, 1980	埼玉県大滝村川又	酒井 貢
39. コガタリハムシ <i>Gsatrophysa atrocyanea</i> Motschulsky	30-V, 1980	埼玉県秋ヶ瀬公園	酒井 貢
40. トホシハムシ <i>Gonioctena japonica</i> Chûjô et Kimoto	23-VI, 1980	山梨県塩山市日川林道	酒井 貢
41. ルリハムシ <i>Linnaeidea aenea</i> (Linnaeus)	18-V, 1981	神奈川県山北町	酒井 貢
42. ダイコンハムシ <i>Phaedon brassicae</i> Baly	28-VI, 1980	熊本県矢部町内大臣	内野敬士
43. オオホソルリハムシ <i>Phratora grandis</i> (Chûjô)	24-VII, 1978	北海道中札内村日高山系	斉藤秀生
44. ヤナギルリハムシ <i>Plagioderia versicolora</i> Baly	22-IV, 1980	千葉県清澄山	酒井 貢
45. ダルマハムシ <i>Potaninia cyrtionoides</i> (Jacoby)	7-VI, 1980	埼玉県大滝村川又	酒井 貢
<b>XII. ヒゲナガハムシ亜科 Galerucinae</b>			
46. サルナシハムシ <i>Agelasa nigripes</i> Motschulsky	13-VI, 1980	山梨県塩山市日川林道	酒井 貢
47. ハンノキハムシ <i>Agelastica coerulea</i> Baly	24-V, 1980	山梨県北都留郡西原	酒井 貢
48. カワリヒゲナガハムシ <i>Arthrotus niger</i> Motschulsky	22-VI, 1980	山梨県塩山市日川林道	酒井 貢
49. ウリハムシモドキ <i>Atrachya menetriesi</i> (Faldermann)	21-VII, 1979	群馬県片品村大沢	酒井 貢
50. ウリハムシ <i>Aulacophora femoralis</i> (Motschulsky)	18-V, 1979	千葉県養老溪谷	酒井 貢
51. クロウリハムシ <i>A. nigripennis</i> Motschulsky	18-V, 1979	千葉県養老溪谷	酒井 貢
52. クワハムシ <i>Fleutiauxia armata</i> (Baly)	18-V, 1979	千葉県養老溪谷	酒井 貢
53. ニレハムシ <i>Galerucella maculicollis</i> (Motschulsky)	22-VII, 1980	山梨県塩山市日川林道	酒井 貢
54. イタドリハムシ <i>Gallerucida bifasciata</i> (Baly)	20-IV, 1980	東京都八王子市梅ノ木平	酒井 貢
55. ムツキボシハムシ <i>G. lewisi</i> (Jacoby)	20-IV, 1980	東京都八王子市梅ノ木平	酒井 貢
56. ヨツキボシハムシ <i>Hamushia eburata</i> (Harold)	20-IV, 1980	東京都八王子市梅ノ木平	酒井 貢
57. キムネウスバハムシ <i>Luperus viridipennis</i> Ogloblin	1-VII, 1981	山梨県三峠山	酒井 貢
58. クロバネアシナガハムシ <i>Monolepta dichrorum</i> Harold	30-VI, 1980	神奈川県厚木市農大農場	酒井 貢
59. ウスイロアシナガハムシ <i>M. pallidulum</i> (Baly)	3-X, 1980	静岡県天城山	酒井 貢
60. フタスジヒメハムシ <i>Paraluperodes nigrobilineatus</i> (Motschulsky)	30-V, 1980	埼玉県秋ヶ瀬公園	酒井 貢
61. アトボシハムシ <i>Paridea angulicollis</i> (Motschulsky)	30-VI, 1980	神奈川県厚木市農大農場	酒井 貢
62. イタヤケブカハムシ <i>Pyrrhalta fascipennis</i> (Jacoby)	13-V, 1980	長野県志賀高原	高須明子
63. サクラケブカハムシ <i>P. semifulva</i> (Jacoby)	22-VII, 1980	山梨県塩山市日川林道	酒井 貢
64. ルリヒゲナガウスバハムシ <i>Stenoluperus cyaneus</i> (Baly)	27-VII, 1980	山梨県広河原	酒井 貢
65. トゲアシヒゲナガハムシ <i>Taumacera tibialis</i> (Jacoby)	1-VII, 1981	山梨県三峠山	酒井 貢
<b>XIV. トビハムシ亜科 Alticinae</b>			
66. スジカミナリトビハムシ <i>Altica latericosta</i> (Jacoby)	12-V, 1980	千葉県流山市江戸川	酒井 貢
67. ヒメテントウトビハムシ <i>Argopistes tsekooni</i> Chen	12-IV, 1980	神奈川県向ヶ丘	酒井 貢
68. カクムネトビハムシ <i>Asiorestia laeviscollis</i> (Jacoby)	18-IV, 1980	東京都八王子市梅ノ木平	酒井 貢
69. オオカクムネトビハムシ <i>A. obscuritarsis</i> (Motschulsky)	18-IV, 1980	東京都八王子市梅ノ木平	酒井 貢

観察標本種名および亜科名	採集年月日	採集地名	採集者名
70. アオバヤナギトビハムシ <i>Crepidodera plutus</i> Weise	22-VI, 1980	山梨県塩山市日川林道	酒井 貢
71. キバネミゾアシトビハムシ <i>Hemipyxis flavipennis</i> (Baly)	6-VI, 1980	埼玉県大滝村川又	酒井 貢
72. ルリミゾアシトビハムシ <i>H. plagioderoides</i> (Motschulsky)	6-VI, 1980	埼玉県大滝村川又	酒井 貢
73. ナガトビハムシ <i>Liprus punctatostrigatus</i> Motschulsky	21-VII, 1979	群馬県片品村	酒井 貢
74. ヨモギアシナガハムシ <i>Longitarsus amicus</i> (Baly)	29-VII, 1980	山梨県広河原	酒井 貢
75. オオバコアシナガトビハムシ <i>L. Lewisii</i> (Baly)	2-V, 1980	東京都奥多摩町水根沢	酒井 貢
76. キアンホソトビハムシ <i>Luperomorpha tenebrosa</i> (Jacoby)	24-IV, 1980	埼玉県入間郡	酒井 貢
77. ルリヒゲブトビハムシ <i>Nonarthra cyaneum</i> Baly	2-V, 1980	東京都奥多摩町水根沢	酒井 貢
78. キアンヒゲブトビハムシ <i>N. tibiale</i> Jacoby	20-IV, 1980	東京都八王子市梅ノ木平	酒井 貢
79. フチトリトビハムシ <i>Pygasia fulvipennis</i> (Baly)	30-V, 1980	埼玉県秋ヶ瀬公園	酒井 貢
80. キスジトビハムシ <i>Phyllotreta striolata</i> (Fabricius)	29-III, 1980	千葉県流山市江戸川台	酒井 貢
81. フタホシオオトビハムシ <i>Pseudodera xanthospila</i> Baly	5-VI, 1981	群馬県赤城山	酒井 貢
82. アサナガスネトビハムシ <i>Psylliodes attenuata</i> Jacoby	12-V, 1980	千葉県流山市江戸川台	酒井 貢
83. ナタネナガスネトビハムシ <i>P. punctifrons</i> Baly	12-V, 1980	千葉県流山市江戸川台	酒井 貢
84. アミメトビハムシ <i>Sangariola punctatostrigata</i> (Motschulsky)	18-IV, 1980	東京都八王子市梅ノ木平	酒井 貢
85. ウスグロアラハダトビハムシ <i>Trachyaphthona obscura</i> (Jacoby)	7-VI, 1979	山梨県塩山市日川林道	酒井 貢
<b>XV. トゲハムシ亜科 Hispinae</b>			
86. キベリトゲハムシ <i>Dactylispa masonii</i> Gestro	6-VI, 1980	埼玉県大滝村川又	酒井 貢
87. カタビロトゲハムシ <i>D. subquadrata</i> (Baly)	20-IV, 1980	東京都八王子市梅ノ木平	酒井 貢
88. クロルリトゲハムシ <i>Rhadinosa nigrocyanea</i> (Motschulsky)	6-VI, 1980	埼玉県大滝村川又	酒井 貢
<b>XVI. カメノコハムシ亜科 Cassidinae</b>			
89. ジンガサハムシ <i>Aspidomorpha difformis</i> (Motschulsky)	5-V, 1981	神奈川県半原	酒井 貢
90. カメノコハムシ <i>Cassida nebulosa</i> Linnaeus	25-VII, 1979	群馬県片品村大沢	酒井 貢
91. セダカカメノコハムシ <i>C. vespertina</i> Boheman	2-V, 1980	東京都奥多摩町水根沢	酒井 貢
92. イチモンジカメノコハムシ <i>Thlaspida biramosa</i> Spaeth	2-V, 1980	東京都奥多摩町水根沢	酒井 貢

表3. ハムシ科各亜科の大腿の形態

亜科名	切歯部	白 歯 部			大 腿 鞘			
		有 無	発 達	痕 跡 的	有 無	ハケ状	袋 状	膜 状
ナガハムシ	伸 長	+	○		+			○
モモブトハムシ		+		○	+	○		
カタビロハムシ		-			+	○		
ネクイハムシ		+	○		+	○		
クビナガハムシ		+	○		+	○		
ナガツツハムシ		-			- +	(注)		
ツツハムシ		-			-			
ツヤハムシ		-			-			
コブハムシ		-			-			
サルハムシ	屈 曲	-			+	○		
ホソハムシ		-			+	○		
ハムシ		-			+		○	
ヒゲナガハムシ		-			+		○	
トビハムシ		-			+		○	
トゲハムシ		-			-			
カメノコハムシ		-			-			

(注) ヨツボシナガツツハムシのみに痕跡的に見られる。



ものは痕跡的である。

大腮鞘 *Prostheca* : ナガハムシ亜科・モモプトハムシ亜科・カタビロハムシ亜科・ネクイハムシ亜科・クビナガハムシ亜科・サルハムシ亜科・ホソハムシ亜科・ハムシ亜科・ヒゲナガハムシ亜科およびトビハムシ亜科の全て、ナガツツハムシ亜科のヨツボシナガツツハムシ *Clyta laviusicula* (Ratzeburg) では痕跡的に大腮鞘が見られた。

大腮鞘はその形態が多様で、ハケ状・膜状および袋状のものなどがある。大腮鞘の他に大腮の付属物として毛束 *penicillum* や後磨縁部 *postmola* 等が知られているが、これらの付属物の区分は必ずしも明瞭ではないので、ここでは大腮鞘に含めて扱っている。

## 2. 各亜科から見た大腮形態

ナガハムシ亜科：切歯部は前方に伸長し、1歯を備える。臼歯部はよく発達し臼状構造が認められる。大腮鞘は膜状で縁はハケ状。

モモプトハムシ亜科：切歯部は前方に伸長し数歯を備える。臼歯部は痕跡的である。大腮鞘はハケ状。

カタビロハムシ亜科：切歯部は前方に伸長し1歯を備える。臼歯部は認められない。大腮鞘はハケ状。

ネクイハムシ亜科：切歯部は屈曲し数歯を備える。臼歯部はよく発達し臼状構造が認められる。大腮鞘はハケ状であるがオオミズクサハムシ属 *Plateumaris* では先方が毛の束になる。背面基部が伸長し、内縁に膜状構造を持つ。

クビナガハムシ亜科：切歯部は屈曲し数歯を備える。臼歯部はよく発達し臼状構造が認められる。大腮鞘はネクイハムシ亜科のオオミズギワハムシ属によく似るが、ヒメクビボソハムシ属 *Oulema* では痕跡的になる。背面基部が伸長し、内縁に膜状構造を持つ。

ナガツツハムシ亜科：切歯部は強く屈曲して内面が発達、2歯を備える。臼歯部は認められない。大腮鞘はヨツボシナガツツハムシのみに痕跡的に認められた。

ツツハムシ亜科：切歯部はナガツツハムシ亜科によく似るが屈曲は強くはない。臼歯部および大腮鞘は認められない。

ツヤハムシ亜科：切歯部は屈曲するが先端が鋭く尖る。臼歯部、大腮鞘は認められない。

コブハムシ亜科：切歯部は屈曲し2歯を備える。内面は凹む。臼歯部、大腮鞘は認められない。

サルハムシ亜科：切歯部は屈曲し2歯を備える。臼歯部は認められない。大腮鞘は大腮内転筋の付着点にハケ状に認められる。

ホソハムシ亜科：切歯部は屈曲し2歯を備える。臼歯部は認められない。大腮鞘はサルハムシ亜科に似る。

ハムシ亜科：切歯部は屈曲し数歯を備える。内面が発達し臼歯部は認められない。大腮鞘は袋状で表面に微毛を備える。ダルマハムシ *Potaninia cyrtanoides* (Jacoby) のみはハケ状の大腮鞘を有する。

ヒゲナガハムシ亜科：切歯部は屈曲し数歯を備える。臼歯部は認められない。大腮鞘は袋状で、2分される種もある。

トビハムシ亜科：切歯部は屈曲し数歯を備える。臼歯部は認められない。大腮鞘はヒゲナガハムシ

亜科に類似する。

トゲハムシ亜科：切歯部は屈曲し数歯を備える。内面はよく発達する。臼歯部および大腮鞘は認められない。

カメノコハムシ亜科：切歯部はゆるく屈曲し数歯を備える。内面が非常によく発達し、サジ状となる。臼歯部および大腮鞘は認められない。背面外縁基部に隆起が見られる。

以上ハムシ科成虫の大腮形態を簡単に述べてきたが、これらをまとめて表3に示した。亜科の配例はKimoto(1964-66)に従った。表3の上位の亜科がより古い形態を残していると考えられている。

#### あとがき

今回の観察においては、ハムシ科成虫の大腮形態は亜科の taxa で比較的まとまっているようである。今後さらに多くの種を観察し、属あるいは種のレベルにおける検討を試み、食性との関連を考えて行きたい。

末筆ながら日頃何かと御教授を賜わっている東京農業大学昆虫学研究室の渡辺泰明助教授に厚く御礼申し上げますとともに、貴重な標本の御恵与に預った山崎裕志・下村徹・斉藤秀生・高須明子・岡山泰三・古川雅通・内野敬士諸氏に深く感謝の意を表する。

#### 参 考 文 献

- 陈 世骥(1973) 叶甲的分类. 昆虫学报 16: 47-56.
- Chûjo, M.(1951a) A taxonomic study on the Chrysomelidae from Formosa, Part I, Criocerinae. Kagawa Agr. Coll., Techn. Bull. 2:71-120.
- (1951b) A taxonomic study on the Chrysomelidae from Formosa, Part II, Donaciinae. Ditto. 3:43-56.
- (1951c) A taxonomic study on the Chrysomelidae from Formosa, Part III. Megalopodinae. Ditto. 3:57-71.
- (1952a) A taxonomic study on the Chrysomelidae from Formosa, Part IV, Zeudophorinae. Ditto. 3:166-183.
- (1952b) A taxonomic study on the Chrysomelidae from Formosa, Part V, Clytrinae. Ditto. 4:237-249.
- (1953) A taxonomic study on the Chrysomelidae from Formosa, Part VI, Lamprosmiinae. Ditto. 4:32-49.
- 中条道夫(1956) 食葉はむし類.
- Chûjô, M.(1958) A taxonomic study on the Chrysomelidae from Formosa, Part X, Chrysomelinae. Taiwan Mus., Quart Jour. 11(1-2):1-85.
- Chûjô, M. & S.Kimoto(1961) Systematic catalog of Japanese Chrysomelidae. Pac. Ins. 3:117-202.
- Crowson, R. A.(1967) The natural classification of families of Coleoptera.
- (1981) Evolutionary History of Beetles, The Biology of the Coleoptera. pp. 658-688.
- 林 長閑(1962) ワモンムナビロハムシの幼虫形態. ニューエントモロジスト 11(5):1-3.
- (1981) 鞘翅目幼虫の食性と口器. 昆虫と自然 16(12):14-19.



- Kimoto, S.(1964a) The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands I. (Subfamilies Orsodacninae, Zeugophorinae, Megalopodinae and Donaciinae). Kyushu Univ., Jour. Fac. Agr. 13:99-118.
- (1964b) The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands II. (Subfamilies Criocerinae and Clytrinae). Ditto. 13:119-139.
- (1964c) The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands III. (Subfamilies Cryptocephalinae, Chlamisinae and Lamprosomatinae). Ditto. 13:141-164.
- (1964d) The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands IV. (Subfamilies Eumolpinae and Synetinae). Ditto. 13:235-262.
- (1964e) The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands V. (Subfamily Chrysomelinae). Ditto. 13:263-286.
- (1964f) The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands VI. (Subfamily Galerucinae I). Ditto. 13:287-303.
- (1965a) The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands VII. (Subfamily Galerucinae II). Ditto. 13:369-400.
- (1965b) The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands VIII. (Subfamily Alticinae I). Ditto. 13:401-429.
- (1965c) The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands IX. (Subfamily Alticinae II.) Ditto. 13:431-459.
- (1966a) The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands X. (Subfamily Alticinae III). Ditto. 13:601-633.
- (1966b) The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands XI. (Subfamilies Hispinae and Cassidinae, and Bibliography). Ditto. 13:635-671.
- (1966c) A methodological consideration of comparison of insect fauna based on the quantitative method. Esakia 5:1-20.
- Matsuda, R.(1965) Morphology and evolution of the insect head.
- 大野正男 (1970) ハムシの生態 (1). インセクトリウム 7:126-129.
- (1971) 日本産ハムシ科名彙. 東洋大学紀要 教養課程篇 (自然科学) (13):31-125.
- 沢田玄正 (1967) 昆虫学.
- 下村 徹 (1975) カミキリムシ科の大肥の分類学的価値 (予報). 甲虫ニュース (31/32):7-9.
- 高橋寿郎 (1968) 日本産ハムシ科幼期の記録. MDK News, XX (1):14-24.
- 高橋雄一 (1954) 原色作物害虫図説.
- 滝沢春雄 (1981) ハムシ科の生活様式. インセクトリウム 18:304-309.

(酒井:〒176 練馬区練馬1-38-8 菊寿荘10号)

# 日本鞘翅目学会第7回総会 甲虫談話会11月例会合同例会記

恒例となった秋の甲虫談話会との合同例会が、昭和57年11月14日に東京浜松町の機械振興会館にて催された。

すでに例会のレポートおよび参加者は当学会会員でもある藤田宏氏によって月刊むし1982年12月号に報告されている。講演は5題行なわれた。

## 特別講演

佐々治寛之（福井大学教育学部生物学教室）「甲虫各科の種数の比較」

## 一般講演

新里達也（緑地植生研究所）「*Rhaphuma hirtipes* ケズネチビトラカミキリについて」（鞘翅目学会）

妹尾俊男（東京農業大学昆虫学研究室）「日本南部および台湾に分布する *Peribathys* 属（ヒゲナガゾウムシ科）」（鞘翅目学会）

鈴木 互（東京農業大学昆虫学研究室）「ビルマおよびインドシナ産 *Penia* 属（コメツキムシ科）のタイプについて」（甲虫談話会）

三宅義一（東京都多摩市）「日本・琉球・台湾産トラハナムグリ族の属の分類」（甲虫談話会）

## 甲虫各科の種数の比較

佐々治 寛之

甲虫類の各科について、日本産の種数を中央ヨーロッパ・旧北区・北アメリカおよび世界全体の種数と比較してみたところ、以下のような結果となった。

研究の精度を除いた場合においても、相対的に日本は森林性の種が多く、草地性の種が少ない傾向があり、加えて朽木やきのこに集まるグループが中央ヨーロッパ・北アメリカに比べて極めて多い。また、日本の種の内容を中央ヨーロッパあるいは旧北区全体と比べると、亜熱帯または東洋区系要素が進入したとみられる傾向がある。研究の進んでいる中央ヨーロッパよりも著しく種数の少ない科は、微小であったり区別がむつかしいという理由で、日本での整理がゆきとどいていない科であることを示している。世界の種数に対して相対的に日本に少ないという傾向は、コガネムシ科やタマムシ科などの大型で、いわゆる人気甲虫にみられる。

若干の科について日本における種数の年代変化をみると、1800年代終りの外国人による研究、1910-40年の日本人による研究、1955年以降の近年の再検討と3つのピークが一般的である。科によっては第2のピークがない、あるいは第2・第3のピークもないという研究状態の科もある。したがって、これらに概当する科は1900年代に入ってから日本人による整理がほとんどなされていない科であり、これらの科については今後精力的な研究が強く望まれる。



# *Rhaphuma hirtipes* ケズネチビトラカミキリについて

文對 謝題

新里 達也

*Rhaphuma hirtipes* Matsushita, 1940 は、台湾中部埔里において2月に採集された1雄の標本に基づいて記載発表された小型のトラカミキリの1種である。その後、奄美大島から新属新種として書かれた *Amamiclytus nobuoi* Ohbayashi, 1964 (アマミチビトラカミキリ) は、小島・林ら (1965) によって本種の異名とされており、現在台湾および奄美大島に産するものは同一種として、*Amamiclytus hirtipes* の学名が当てられている。

最近、演者は台湾および奄美大島産の *Amamiclytus* 属の標本を多数検する機会に恵まれ、また原記載を検討の結果、松下の種 *hirtipes* について幾つかの知見を得ることができた。

- ①松下の種 *hirtipes* は原記載によれば体は非常に細く、触角の長い種であるが、奄美大島産はむしろ体は太く短く、触角も短い種である。
- ②台湾では現在までに *Amamiclytus* 属の範疇に含まれると思われるトラカミキリが6種 (未記載種を含む) 分布することがわかってきたが、いまだ奄美大島産と同一の種は未発見である。
- ③台湾産6種中、原記載から判断して *hirtipes* と同定される種は奄美大島産とはまったく異なる種である。

上記のことから明らかであるのは、松下の種 *hirtipes* は台湾産の1種をさすべきもので、奄美大島産にはやはり *nobuoi* を当てるべきである。小島・林らの見解が、外見上極似している台湾の *Amamiclytus* の数種をすべて同一種の変異と見なし、奄美大島産もその範疇に含まれるものと考えた結果か、あるいは記載文との照合のうえでの単なる誤同定であるのか、推測の域は出ないが、以上の3点から判断する限りではその扱いは訂正されるべきであろう。真の *hirtipes* の正体は模式標本を検していないため、演者自身も釈然としていない状況であるが、少なくとも奄美大島に産する *nobuoi* はこれとは異なる独立種であるという点だけは提示しておかなければならない。またこれによって *hirtipes* の属の所属についても *Amamiclytus* に含めるべきか、今後検討する必要が生じたわけである。

本講演は *Rhaphuma hirtipes* について、とあるが、時間の都合から奄美大島産の *nobuoi* との関係についてのみ述べさせて戴いた。

## 日本南部および台湾に分布する *Peribathys* 属

(ヒゲナガゾウムシ科)

妹尾 俊男

*Peribathys* 属は、ベンガル地方からインドシナ、スンドラランドを経てセレベスにかけて分布しており、現在までにこれらの地域から6種が記載されている。今回演者は、奄美大島および台湾の阿里山から採集された本属の標本を検する機会に恵まれた。それらを検討した結果、前胸の側縁・複眼前の印刻・触角各節・腹節腹板の斑紋・腹部末端節・雄交尾器等の形態的特徴により、それぞれを新種として認めた。また、本属のこれまでの分布北限は中国南東部であったが、今回の新種の発見により奄美大島まで北上した。そのことにより、本属を包含する *Xenocerini* が本邦にも分布することが明らかになった。

## 第7回・名古屋支部例会記

山登 甲澤

穂積 俊文

今年も採集シーズンを前にした3月13日、名古屋産業貿易会館において鞘翅目学会名古屋支部大会が開かれた。

支部大会も今年で7年、参加者も徐々に増えて今年は31名を数えるまでになった。

講演は、東京から藤田宏氏による「日本のルリクワガタムシ3種について」、竹内克豊氏による「愛知県下におけるルリクワガタムシ類について」、そして昨年「岐阜県の昆虫」を執筆された野平照雄氏による「岐阜県のカミキリムシとゾウムシについて」の3題が行なわれた。

参加者（順不同 31名）

清水信治、村田文彦、蟹江昇、今村隆一、井野川重則、藤田宏、森部一雄、伊藤徳造、大竹勝、岩崎博、平田滋宜、長谷川道明、河路掛吾、水谷高弘、長谷川稔洋、石田勝義、野平照雄、小粥秀祐、加藤隆行、生行展行、大塚篤、市岡孝郎、穂積俊文、河北均、松永晴彦、後藤武司、竹内克豊、横井秀樹、石原伸宏、佐藤正孝、太田克人。



さやばね 8号で名古屋支部例会記に第5回とありましたが、これは第6回の誤りです。本誌上でお詫と訂正をいたします。（編集部）



日本鞘翅目学会・会員動静

(1982年9月1日～1983年10月1日)

○新入会員

会員番号 氏名 郵便番号 住所



○住所変更(新住所)





◦退 会



◦認定退会

数回の通知にもかかわらず、丸2年間会費を滞納されている方は、残念ですが認定退会扱いとさせていただきます。なお、復会には未納分の会費と入会金500円を必要とします。



会からのお知らせ・ご案内

○バックナンバーはすべて東京通販サービス社へ

1980年度よりバックナンバーの発送はすべて東京通販サービス社に委託いたしました。バックナンバーのお申し込みは必ず東京通販サービス社の方へなさって下さい。事務局の方では一切扱っておりませんので、絶対にお申し込みにならないで下さい。また、1980年度よりバックナンバーの学生割引はやめ(委託販売により計算が大変めんどろになるため)、一律料金といたしました。

「ELYTRA」Vol.1 №1, Vol.2 №1 & 2 (1973~1974年)	3冊組 ¥2,000 (〒200)
「ELYTRA」Vol.3 Nos 1/2「さやばね」№1 (1975年)	2冊組 ¥2,000 (〒200)
「ELYTRA」Vol.4 №1 & 2「さやばね」№2 (1976年)	3冊組 ¥2,000 (〒200)
「ELYTRA」Vol.5 №1 & 2「さやばね」№3 (1977年)	3冊組 ¥3,000 (〒200)
「ELYTRA」Vol.6 №1 & 2「さやばね」№4 (1978年)	3冊組 ¥3,000 (〒200)
「ELYTRA」Vol.7 №1 & 2「さやばね」№5 (1979~1980年)	3冊組 ¥3,000 (〒200)
「ELYTRA」Vol.8 №1 & 2「さやばね」№6 (1980~1981年)	3冊組 ¥3,000 (〒200)
「ELYTRA」Vol.9 №1 & 2「さやばね」№7 (1981年)	3冊組 ¥3,000 (〒200)
「ELYTRA」Vol.10 №1 & 2「さやばね」№8 (1982年)	3冊組 ¥3,000 (〒200)

○お申し込み先: 〒156 東京・千歳郵便局私書箱33号 東京通販サービス社  
TEL 03(426)6012 郵便振替 東京0-73156

より高度な蒐集・研究は文献から!

日本産甲虫目録 第5集 No.20~24 5冊セット ¥2,500 (〒250) .

カミキリムシ科(3)、ハムシ科(3)、ナガハナノミ科、テントウムシダマシタ科、チビシデムシ科を収録。

★既刊分: 第1集 No.1~7 (クワガタ, クロツヤムシ, ハンミョウネホソガムシ, マルドロムシ, ヒラタドロムシ各科)

7冊組 ¥800 (〒200) .

第2集 No.8~14 (フロムシ, セメドロムシ, ダエンマルドロムシ, コメツキムシ 1, ミジンキスイムシ, ホソカ

タムシ, カクホソカタムシ各科) 7冊組 ¥800 (〒200) .

第3集 No.15~17 (コガネムシ科-1, カミキリムシ科-1, ハムシ科-1)

3冊組 ¥900 (〒200) .

第4集 No.18~19 (ハムシ科-2, カミキリムシ科-2) 2冊組 ¥1,500 (〒200) .

A. И. УВЕРЕПАНОВ УСАЧИ СЕВЕРНОЙ АЗИИ (Cerambycidae of North Asia) 北アジアのカミキリムシ

Vol.2 Part 1(Cerambycinae) & Vol.2 Part 2(Cerambycinae:Clytini;Stenaspini & etc.)

B5, 475pp., 288 figs. cl. カミキリムシ亜科 2冊組 ¥14,480 (〒400) M.

VOL. 3 (Lamiinae:Dorcadionini-Apomecynini) フトカミキリ亜科-1-

B5, 224pp., 120 figs. cl. ¥4,400 (〒300) M.

ソ連の本は原則として計画限定出版ですので、お早めにお求め下さい。尚来年第4巻の出版が予定されています。

T T S より移転と名称変更のお知らせ

小社の事務所が2ヶ所、倉庫が4ヶ所に別れており、大変仕事の能率が悪く不便でしたので、1月5日より下記に移転致すことになりました。新しい所は小田急線と国鉄南武線の「登戸」から多摩川の上流方向に歩いて約6分です。新宿からは急行で4つ目で約20分、時間的には経堂とあまり変わりません。車の場合は、「世田谷通り」を下り多摩川の橋を渡り、直ぐの「登戸」の信号を右折し最初の信号「登戸新町」を左折直ぐ右側です。駐車場には3台は楽に入ります。

尚<経堂>では12月20日まで営業し、22日から年末まで移転のため休業致します。新年は1月5日より「登戸」にて営業致します。また、移転にとり名称もT T S 昆虫図書と変更致します。

1月5日から新住所になります  
昆虫洋書・図鑑・学術書・地方出版物  
T T S 昆虫図書  
〒214 川崎市多摩区登戸新町14  
(156 東京・千歳郵便局私書箱33号)  
TEL 044-911-8511(代) 郵便振替 東京0-73156  
定休日: 毎水曜日・祝日

12月20日まで  
東京通販サービス社  
〒156 東京・千歳郵便局私書箱33号  
TEL 03-426-6012 郵便振替 東京0-73156  
12月5日まで「経堂サヨナラ謝恩セール」

ご注文はハガキに署名捺印の上(18才未満は保護者印)ご注文下さい。直ちにお送りいたします。代金は到着後5日以内にご送金下さい。送料は2冊以上になると安くなります。



## 1982年度会計報告

(1982年1月1日～12月31日)

取 入	支 出
前 期 繰 越	ELYTRA, Vol.9 ㊦2印刷代(残り分)
106,335	384,000
入 会 金	ELYTRA, Vol.10 ㊦1印刷代
7,500	601,300
バックナンバー代	さやばね, ㊦8印刷代
263,900	86,000
1982年度分会費	送 料
380,000	192,070
1983年度分会費	パンフ類コピー代
416,000	23,000
1983年度以降分の会費	事 務 関 係 費
21,000	20,420
別 刷 代	総会会場費('81分)
63,435	41,500
広 告 料	総会会場費・他
170,000	71,500
預 金 利 子	雑費・通信費
1,581	11,740
甲虫談話会より会場費(2回分)	次 期 繰 越
41,500	58,621
11月14日入場費	
17,300	
雑 収 入	
1,600	
1,490,151	1,490,151

## 編 集 後 記

今年も残すところ1ヶ月半足らずとなってしまいました。今年の採集品はまだ10分の1程度しか標本になっていません。昨年、一昨年の方は考えないようにしています。また、これらのうちで、まとまるものは少しずつでも活字にしなければいけないと思っています。それでも私達の都合を全く無視してイノシシは逃げていってしまいます。

今年のカミキリ界は大きな出来事が起きてしまいました。すでに御存じの方も多いと思いますが、春にBreuning氏が、秋にはVilliers氏が亡くなりました。Breuning氏は20代後半から精力的にフトカミキリ類を記載し、600編以上の論文中で6000種以上(亜種や型なども含めると恐らく8000にも9000にもなるであろう)を発表している。一方Villiers氏は数年前から林匡夫博士と共同で世界のハナカミキリ亜科の属の整理を内容とした大論文を書いておられ、近年中に発行される予定であるとのことであった。Breuning氏は90才近いお年であったので生涯カミキリムシの記載に徹し全うされたが、Villiers氏にはまだこれから多くの研究を進めていただきたかった。また氏はバリ博物館で甲虫のcuratorもやっておられカミキリ以外の甲虫研究者も大変お世話になっている方でした。

昨年の春Gressitt氏が飛行機事故で亡くなったことも記憶に新しいところで今年も世界のカミキリ学者が二人亡ってしまいました。カミキリ界も新しい時代が来る!という見方もできますが、それにしてはまだまだ若手が研究不足力不足です。彼等の研究が跡絶えないよう若手の研究者が大いに奮起してほしいものです。来たるネズミのように全世界に繁栄するよう頑張りましょう。

なおその成果の一部でも本誌に投稿していただければ幸いです。

さやばね ㊦9 昭和58年11月20日発行

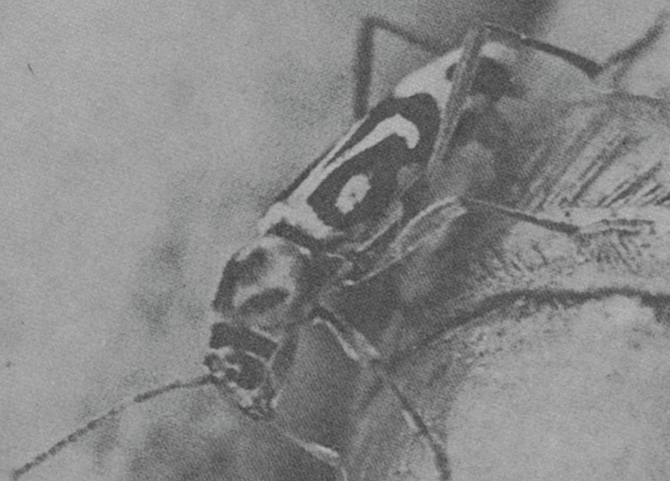
編集者: 齊藤秀生 齊藤明子

発行所: 日本鞘翅目学会(〒110 東京都台東区東上野4-26-8, 福田惣一方)

株式会社

# 志賀昆虫普及社

〒110 東京都渋谷区渋谷1丁目7番6号(宮益坂上)  
TEL. 03 (409) 6401 (代) 振替/東京21129



●新製品/最上質ステンレス製シガ有頭昆虫針  
0. 1. 2. 3. 4. 5号発売中

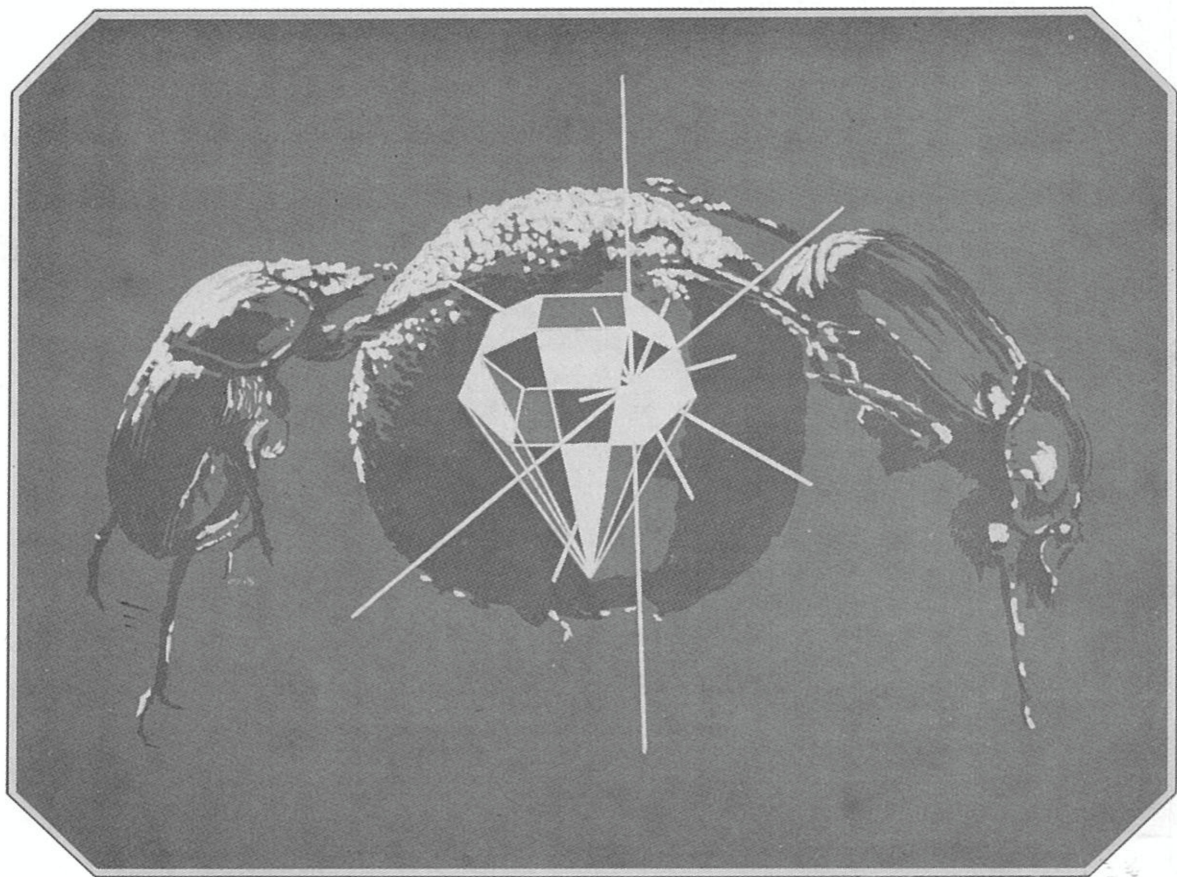
●専用カタログあり 要郵券 140円

営業種目 採集瓶・採集箱・幼虫胴乱・採集バンド・展翅板類・  
飼育用具・顕微鏡・標本箱各種・三角ケース・捕虫網・標本瓶・植  
物採集用具・殺虫管・プレパラート製作用具・名箋・ピンセット・  
平均台・液浸用管瓶・ルーペ類・コルク類・その他

営業時間：9時～18時

休日：毎日曜，祝祭日，10月1日





真珠より美しく  
 ダイヤより価値がある  
 大切な標本を永久に守る  
 《ドイツ型標本箱》

自然はますます大切なものとなってきました。この不思議な世界を解明する貴重な手掛りとなる昆虫標本は、価値あるものとして永久に保存したいものです。

そんな願いをこめて、タツミ製作所では、昆虫標本の保存に最適なドイツ型標本箱をお届けします。

\*すばらしい特長

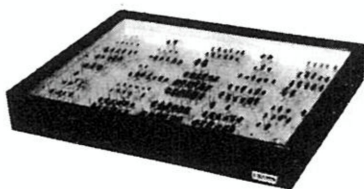
- くるいのこない良質な木材を使用
- 湿気や乾燥にも強い独特の構造
- パズールにも変化せず、標本がより美しく見える白色プラスチック底

●高級ニス塗装の丈夫で美しい仕上げ

※標本箱のほか、展翅板など昆虫標本作成に必要な器材もあります。  
 昆虫器材カタログ、昆虫関係輸入図書・委託図書リストもあり。

〒113 東京都文京区湯島一丁目二番五号 ☎03(381)4547  
 郵便振替 東京一三三七九

(有)タツミ製作所



大型  
 4,500円(送料別)

中型  
 4,000円(送料別)

この価格は昭和51年4月現在のものです